

天才ピアニスト／咲くやこの花インタビューvol.47

天才ピアニスト(てんさいぴあにすと)【令和6年度 大衆芸能部門 [お笑いコンビ]】

竹内知咲(たけうち・ちさき)、ますみ



数々のコンテストを制し名実ともにトップランナーへ
今や上方演芸の存在を全国に知らしめる一翼に

元々看護師を務めていたますみさんと高校の非常勤講師(理科)だった竹内さんが吉本興業のタレント養成所の NSC で出会い、2016 年 5 月にコンビ結成した天才ピアニスト。2022 年に「第 52 回 NHK 上方漫才コンテスト」で優勝して以降、「女芸人 No.1 決定戦 THE W 2022」(2022 年)、「第 8 回上方漫才協会大賞」大賞(2023 年)、「令和 5 年度 NHK 新人お笑い大賞」(2023 年)、「第 59 回上方漫才大賞」新人賞(2024 年)など、めきめきと頭角を現し、立て続けに賞レースを制しました。

受賞理由にも「新しい時代の女性お笑いコンビの代表格となりつつあり、メディア露出も増えているが、現状に満足することなく、新ネタを毎月6本作るなど前向きな姿勢で芸を磨き続けている。上方演芸の存在感を全国に示す一翼を担っており、将来の大阪文化を担う人材として期待される」とあり、「咲くやこの花賞」を機に大きく羽ばたいていく二人の姿が想像できます。

取材・文／岩本和子

お笑いへの熱量が同じ二人、コンビ結成は必然に？

「咲くやこの花賞」受賞、おめでとうございます。

ますみ:あの一、驚いています！ 自分たちはまだまだ芸歴も浅いし、今、この段階で「咲くやこの花賞」をいただけるなんてと驚いています。我々の身近なところで言うと、(令和 3 年度の受賞者の)ミルクボーイさんが『M-1 グランプリ』のチャンピオンになられて。

竹内:すごい方ばかりですね。

ますみ:吉本でいえばすっちーさんとか、小籾(千豊)さんも獲られていて、皆さんと同じラインで選んでいただけたのは光栄でありながら、もっともっと頑張らなあかん、頑張れよと応援されているような感じを受けています。

竹内:私も今後への期待を込めてくださったのかなと思いました。なので、「賞をあげてよかったな。間違いなかったな」と思ってもらえるよう活動していきたいなと思います。気が引き締まった感じですね。

では、改めてコンビ結成当時のことをお聞きしたいのですが、お二人は NSC で出会われて、お互いの第一印象はどうでしたか？

ますみ:NSC の時はいちクラスメイトとしての関係性で。

竹内:たまに飲みに行くみたいなの。

ますみ:竹内さんは私と結成するまで NSC で(コンビを)4 回解散していました。なので、めちゃくちゃ意思が固いというか、自分がこうだと思ったことについてきてくれないと解散する、ちょっとやばいやツヤなと思ってました(笑)。

竹内:(天才ピアニストを)組んだ時も(周囲は)「どうせ、また解散するやろ」みたいな感じでした。



竹内さんから見たますみさんの第一印象は？

竹内:最初の印象は、しっかりしていて、はきはきしているツッコミの人という感じでした。

ますみ:NSC38 期生の中ではダントツで年齢が上だったので、27、28 歳ぐらいうったので、お姉さんとしてしっかりしなきゃという幕を一枚、張っていたというか。

竹内:その頃のますみはツッコミをやっていたまして、ショートカットで、痩せていて、自分とポジションがかぶっている人みたいな。今では想像つかないと思いますが、私服もスポーティーでした。そうやったんですけど、NSC の授業で(ますみを)見ていくうちに、ツッコミをやっているけどボケが向いている人やな~と思うようになって、コンビを組む時はボケをしてほしいと。

ますみ:竹内と組むことになった時、ツッコミをやらせてという気持ちは私の中に全くなくて。竹内はツッコミワードも独特やし、言い方とか声のトーンもツッコミ専用みたいだったので、竹内と組むんやったら自分は絶対ボケやろうなって、何の迷いもなくボケに来ました。

竹内:コントもそうですが、ますみは割と憑依型というか、役を降ろすという感じです。なので、ツッコミの時はツッコミの人を降ろしていたけど、私と組んでからはボケの人を憑依させたみたいな。結構がらっと変わったイメージですね。

ますみ:確かに今、竹内が言ったみたいに「ツッコミさんをやらなきゃ」って思ってツッコミを憑依させていたと思います。ボケになったらボケのキャラクターになりきるという。モノマネもそうですが、なりきるのが得意だと思うので。逆に普通の自分を出すのが苦手なタイプですね。



素のますみさんは違いますか？

竹内:素のますみは皆さんの思っているイメージとは違うと思います。なんとなく、めっちゃ明るくてコミュニケーション力もあってというイメージかなと思うのですが、全然そんなことなく、結構人見知りですし、繊細といえば繊細です。

ますみ:大人数とか苦手で。

竹内:意外とますみの方が大人数の忘年会とか新年会が苦手だったり。私の方が嫌がりそうじゃないですか。ますみの方が嫌がってます(笑)。顔が明るいので、勘違いされやすいというかね。大人数の忘年会でも一番に踊り出しそうですけど、端っこの席でしっとりと飲んでますね。それが素のますみです。

聞くとところによると、NSC 時代の竹内さんは「相方を追い込みがち」な面もあったそうですが、その点に関してますみさんはどう思われていましたか？



ますみ:私も自分がネタを書いていた時は正直、追い込み型やって、相方に「お笑いやっていくことに対して、どういうふうに取り組んでる？ 遊びじゃないで。仕事やから。ネタ合わせってすごく大事なんか。将来的にお笑いを仕事していくんやったら、遊ぶのと、ネタ作りと今、どっちが大事なんやろ？」みたいなことをガーっと言って詰めたことで解散したこともあるくらい…。

竹内:言うてますみも 3 回、解散してますから。

ますみ:はい。二人とも芸人になる前に社会人を経験しているので、お笑いを仕事として取り組んでいと言っちゃうとなんか堅苦しくなるんですけど…。

竹内:意識やね。遊びちゃうでみたいな熱量が二人とも一致していたので、そこが私的には一番やりやすい。温度が一緒という点でコンビが長続きしているのかなと。今までの解散したコンビは多分、ずっと温度差があったので、そこですかね。

ますみ:駆け出しのころは 1 週間に 1 回、ライブがあるかないかのレベルやったんですけど、二人ともアルバイトのない時は 1 日 3 回集まっていました。朝とバイト前のお昼、バイト終わってから 22 時から 2 時間ぐらいとか。今すぐネタ見せのライブはないけど、仕事として捉えているし、意識が一緒なのでそれが当たり前にできていたところはありますね。

竹内:二人とも「元同僚は朝 8 時から働いているんだ」という思いがずっとちらついていましたしね。「今、元同僚はいっぱい働いてる。でも私たちはお金も生み出してなければ、誰にも貢献していない」と。この時間をできるだけ早く変えていきたいという思いは二人ともありましたね。なので、頑張ろうって。

決勝の一步手前まで進んだ『THE W』が転機に

お二人の経歴を拝見しますと、コンテストの結果が出始めたのが 2022 年ごろでして、それは 2020 年、2021 年ごろに芸への取り組み方に何か変化があったのでしょうか。それとも前々から積み重ねてきたものが実を結んだという感覚ですか？

竹内:積み重ねてきたものもあると思いますが、結果が出る直前からネタを作る量を増やしたというのはあります。毎月、単独ライブをやって、新ネタを 5、6 本下ろすというふうに変えてから笑ってもらえるようになったという印象もありますし、それまではどうやったら賞レースの決勝に行けるのかあまりイメージできていない状態だったのですが、決勝がイメージできるようになったりとか。ネタを作る量を増やしてから「勝てるな、これは」と思えるようになりましたかね。

ますみ:それこそ 2020 年の『女芸人 No.1 決定戦 THE W』(以下、『THE W』)が決勝の控えメンバーみたいな。決勝メンバーが 10 組だとしたら、私たちは 11 位のリザーブ枠で、一応、スタジオに行つて、誰かが体調不良とかになった時に決勝に上がれるという控え選手だったんです。結局、誰も体調不良を起こさなくて、決勝には出られない、11 位のままだったのですが、決勝目前まで行けたのが

2020 年の『THE W』のリザーブ枠やったので…。それまで他の賞レースは 2 回戦、3 回戦で負けていて、そのたびに「こんなものか」みたいな。

竹内: 決勝に届くという感覚を掴んだことがなかった。

ますみ: 賞レースに対して、そこまでぐっと力が入る思いはなかったんですけど、2020 年の『THE W』の時に「あと 1 点でも高かったら、もしかしたら決勝メンバーやったかも…」と思って、そこから本格的に賞レースに熱を注ぐようになったというか。

竹内: あと 1 年やったら絶対決勝行けるし、優勝できるって思いましたね。

ますみ: それで 2021 年の春ぐらいから毎月単独ライブをスタートしました。

「こんなものか」と思っていた時期に比べると、その変化は大きいですね。

竹内: めっちゃ大きいですね。だから『THE W』には感謝していますね。頑張る取っ掛かりをいただいたと思います。



準備して挑まないで失敗した時に意味がない

では、ネタ作りの変遷を教えてくださいか？

竹内: 若手の子はみんなそうだと思いますが、最初は自分たちが面白いと思うことをやりたくて。なので、コントやりたい、漫才やりたいから始まって、我々は両方やっていました。でも、だんだんと自分た

ちが好きでも、実際に内容が面白くても、自分たちに合わないものがあるということに舞台を経て気づきまして。例えば、シニールより王道の方が合うとか、口調とか言葉遣いも激しいものよりちょっと品のある柔らかい方が合うとか。舞台をしながら、だんだんそういうふうになってきましたね。あとは、コントだったらますみと竹内の配役がバシッと来るもの。最初は無理して私が男役をやったりとか、いろいろありました。ますみが龍をやったりとかね(笑)。

ますみ:ドラゴンね(笑)。

竹内:やけど、まあまあ人間だけが出てくるネタの方がウケるな…とかね。龍をやってもウケるコンビもいるじゃないですか。だから無理してはあかんなど。

ますみ:そこまで破天荒なイメージもないやろって。なので、勝負ネタとか、なんばグランド花月でやるとなった時は自分たちにフィットするキャラクターでやる。結局、そういうネタが残っているかなという感じですね。治安の悪いおじさんとかのコントもあるんですけど。

竹内:たまにはそういうのをやるのも大事なんですけどね。

新ネタをたくさん作るようになって、自信もついてきて、その間にお二人が得た気づきがあれば教えてもらっていいですか？

竹内:芸人ってふらっと舞台に出て、さっとネタをして帰って…という姿がかっこいいですけど、それができている人ってめっちゃ準備していると思うんですよ。実際、楽屋で見ましたし。結果が出ている人はまあネタをいっぱい作っているか、丁寧に作っているか、めっちゃネタ合わせしたり、話し合いをしている。ちゃんとぶつかって意見を言っていると思います。例えばトーク番組に出るにしても、2本しか話す機会はないけど、10本くらい用意して、その場にあった流れで適切なものを放り込む。そういう姿を私たちはよしもと漫才劇場の楽屋でたくさん目撃しました。ふらっと出てその場のアドリブでさっとやるというのは、莫大な準備に支えられているからできると思うので、私はNSCに(講師として)行った時も言いますね。準備が全てやし、準備して挑まないと失敗した時に意味ないんですよ。スベっても、ネタ合わせ不足でスベったら、ほな、この舞台の失敗、何にも生きないというか。

ひとつのチャンスがもったいないですね。

竹内:そうです。だいたいどの仕事もそうだろうと思いますけど、準備。準備がめっちゃ大事かなと。努力というより準備かな。

ますみ:むずいですよ～、それって。めちゃくちゃ難しいです。

竹内:難しいですよ、準備は。才能の差じゃなくて、マジで準備の差で結果に違いが出ていると思い

ます。周りの芸人は自分より才能があると思うけど、準備では負けへんと思うから。でも、みんなが自分と同じくらい準備してきたら絶対負けだと思います。いかに準備するか。それは自分の武器としても大事やと思います。

ますみ:私はいつ何時も、気持ち的にちょっとしんどいとか、落ち込んでいる時があっても、舞台に出たらいつでも100%のますみを出せるようにしています。切り替えスイッチをいつでも押せる準備はしていますね。

竹内:プロとしての。

ますみ:それは他の仕事でも同じだと思うんですけど、プロとしての自覚というか。仕事への向き合い的な面で言うと、しんどくてもさっと目を変えて、100 点の状態で舞台に出るというのは心がけていますね。

竹内:お客さんが少ない舞台とか、あんまり人を見ていない生配信とかもあるじゃないですか。でも、そのライブや生配信がきっかけでファンになってくれる方もいるので。お客さんの中には、仕事で落ち込んで来ている人もおるかも分からないから、スイッチを入れて、ベストでやりたいっていうのはありますね。



天王寺 MIO と御堂筋線が好き！

では最後に、お二人がそれぞれ大阪市に「咲くやこの花賞」を贈るなら何に贈呈されますか？

ますみ:天王寺 MIO です。私は高校が大阪やったんですけど、地元が奈良の高田市駅で、高田市駅から南大阪線であべの橋まで行っていて。目の前に天王寺 MIO が建っているじゃないですか。乗り換え

で MIO を必ず通るから、ほぼ毎日、クレープ食べに行ったり、飲み物だけ飲みに行ったりして、ファッション、メイク、CD も売っているし、百均とか文房具屋さんも、全部あるので、高校生活＝天王寺 MIO ぐらい思い出が詰まっているというか。好きな人と一緒に行ったりっていうのもあるし(笑)。

竹内:ええ～！ そこ書いておいてください(笑)。

ますみ:今もめっちゃ好きで、忙しくさせてもらっているんで、ゆっくり行くことはあんまりないんですけど、仕事が 17 時半とか、18 時に終わった日は、MIO は 20 時半で閉まるので、2 時間あったら私は MIO に行ってます。

竹内:確かに。18 時半に劇場にいる段階で、「今日、天王寺行こうかな」って言ってます。

ますみ:天王寺 MIO は全部、(買い物を)解決してくれるんですよ。あの建物が。自分が高校の時に通っていたっていうのがあるから、あの境界の地図も頭の中に入っていて、庭のように思わせてもらっていて、ほんまに落ち着きますね。だいたい一人で行くんですけど、ルートが決まっているので、ほぼダッシュぐらいの感じでぶわ～って行ってます。

竹内:無駄がないねんな。

ますみ:無駄がない。

竹内:私は地下鉄御堂筋線です。私、めっちゃせっかちなんですよ。御堂筋線はほんまに待たせへんじゃないですか。もう大好きなんです。全部の電車、あのダイヤにしてほしいぐらいです。

ますみ:2 分間隔ぐらいで来るもん。

竹内:そうそう！梅田も行けますし、京阪の淀屋橋も行けますし、新大阪も行けるし、心斎橋も行ける、難波も通ってるみたい。自分にとって重要なエリアはすべて行ってくれる。なおかつあのダイヤで、天王寺止まりは空いているとか。好きやわーと思って。いつもほんまに感謝してます。御堂筋線って電車逃した！って思わないじゃないですか。乗り遅れた～！って。遅刻もさせないし。

ますみ:電車が来ても人がいっぱいだったら見逃そうかって思う時あるもん。

竹内:あるあるある。

ますみ:私にとったら天王寺止まりで十分です。天王寺 MIO に行きたいんで。

竹内:だから大阪に住む限りは御堂筋沿線がいいと思ってます。家を決める時のめっちゃ大事な条件ですね。御堂筋線は最高です。



【略歴】 天才ピアニスト(てんさいぴあにすと)

元々看護師を務めていたますみと高校の非常勤講師(理科)だった竹内が吉本興業のタレント養成所・NSCで出会い、2016年5月にコンビを結成。2022年に「第52回NHK上方漫才コンテスト」で優勝して以降、「女芸人 No.1 決定戦 THE W 2022」(2022年)、「第8回上方漫才協会大賞」大賞(2023年)、「令和5年度NHK新人お笑い大賞」(2023年)、「第59回上方漫才大賞」新人賞(2024年)など立て続けに賞レースを制す。

【YOSHIMOTO ホームページ】

<https://profile.yoshimoto.co.jp/talent/detail?id=6698>